

秋田・観音寺廃寺跡^{かんのんじ}

- 1 所在地 秋田県平鹿郡大森町上溝字観音寺
- 2 調査期間 一九九九年(平11) 五月～十二月
- 3 発掘機関 秋田県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 吉川 孝・五十嵐一治
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 古代末～中世初期・中世後期～近世初頭
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大 曲)

遺跡は天平宝字元年(七五七)の創立と伝えられる式内社波宇志別神社本殿が鎮座する保呂羽山の南東約七・六kmに位置し、保呂羽山を源とする雄物川の支流、上溝川の左岸微高地上に立地する。対岸には標高一二〇・三mの古寺山がそびえ、山中の観音寺経塚から文化六年(一八〇九)に経筒と甕が掘り出されている。出土した経筒のひとつには「久安五年己巳五月日僧良

与」の文字が刻まれていた。共伴する須恵器系中世陶器の経甕は現存し、吉岡康暢氏よりI期の年代が与えられている。江戸時代の紀行家菅江真澄は文政七年(一八二四)にこの地を訪れ、これらの出土品から、『日本三代実録』貞観六年(八六四)五月八日条にある定額寺「出羽国観音寺」と想定した。

調査は二三五〇㎡に及び、平安時代から近世初頭に至る時期の多数の遺構・遺物を検出した。出土遺物としては斎串・形代などの木製祭祀具のほか、曲物・碗皿類・箸・籌木をはじめとする多種多様な木製品、白磁・青白磁・青磁などの輸入陶磁器、かわらけ・須恵器系中世陶器などの国産陶磁器も多量に出土した。中世後期～近世初期にかかる遺物としては、中国産白磁のほか、瀬戸・美濃産陶器や肥前系陶磁器が出土した。

木簡は四つの遺構からおのの一点ずつ出土した。井戸SE四〇〇五は調査区南部で検出したもので、規模は長軸一・二m短軸一・一m深さ一・二m。時期は古代末から中世初期と推定できる。木簡(1)はその埋土中位から出土した。

掘立柱建物SB五は調査区南部で検出したもので、建物規模は三間×三間、南に廂が付く。時期は古代末から中世初期。木簡(2)はこの建物を構成する柱穴SKP四一八六Bの底から出土した。

河川跡SL四は調査区北部で検出したもので、近世初頭の建物群を区画すると思われる溝である。木簡(3)はそれに合流する溝から出

土した。

河川跡SL三〇〇二は調査区中央部のMK六〇グリッドで検出された。ここからは古代末～中世初期の木製品が多量に出土している。上溝川の現在の河道にも近く、付近にかつて橋があった可能性も考えられる。木簡(4)はこの河川跡付近から出土した。

8 木簡の釈文・内容

井戸SE四〇〇五

(1)

・☐ 田(鰯) ☐ 田メ
トヒ ☐ 汶
リヒ ☐ 毛モ
男ヲ ☐

・☐ 米 ☐ 米
☐ ☐ ☐ ☐

(60)×106×4.081

柱穴SKP四一八六B

(2) 御仏殿前申]

(171)×33×20.019

河川跡SL四に合流する溝跡

(3)

「☐☐☐☐
マ字十丸五斗四升」

130×32×5.011

河川跡SL三〇〇二

(4) 「。はしはしら」

135×40×6.011

(1)は井戸閉塞の祭祀に伴い埋納されたと考えられる。上下を欠損している。国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示によれば、漢字とその読みを記した木簡で「字書木簡」と言うべきものであるという。裏面にも墨書がある。

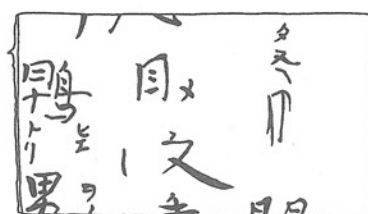
(2)は柱材を抜き取った際の廃絶行為として埋納されたものと考えられる。

(3)は付札の類と思われる。出土遺構からみて、木簡の時期も近世初頭の可能性が高い。

9 関係文献

秋田県教育委員会『観音寺廃寺跡』(秋田県文化財調査報告書第三二一集 二〇〇一年)

(五十嵐一治)



秋田・本荘城跡 ほんじょうじょう

- 1 所在地 秋田県本荘市出戸町字尾崎
- 2 調査期間 第三次調査 二〇〇一年(平13)一〇月～十二月
- 3 発掘機関 本荘市教育委員会
- 4 調査担当者 長谷川潤一・土田房貴
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

の慶長一七年（一六二二）頃、その後六郷氏の居城として廃藩まで機能した。本調査は、本荘公園整備事業屋内プール建設に伴い、一八世紀初頭以降、三の丸であった区域の北西部で実施した。その結果、主に一八世紀初頭以降の複数の層で多数の廃棄遺構（土坑）や水溜状遺構などが検出された。史